Shinshu University Journal of Educational Research and Practice，*No.17*，pp.162-171，2023
信州大学教育学部研究論集　第17号　pp.162-171　2023年

＜研究報告＞

中学校家庭科の教科書におけるジェンダー分析

ーSDGs の目標 5 ジェンダー平等の実現を目指してー

中田もも　　立山町立雄山中学校
鄭　暁静　　信州大学学術研究院教育学系

キーワード：中学校，家庭科，教科書，ジェンダー，SDGs

１．はじめに

2015 年，国連サミットで持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）が採択された。それは，持続可能でよりよい世界を目指し，2030 年までに各国が協力して達成すべき 17 の目標，169 のターゲットである。その，5 つ目の目標に「ジェンダー平等を実現しよう（Gender Equality）」が掲げられ，世界で起こっているジェンダー課題の解決に向けた取組が求められている。日本政府もこれを受け，2019 年に女性活躍推進法の一部を改正するなど，目標達成に向け様々な政策を見直している。しかし，2021 年の SDSN（Sustainable Development Solutions Network）の報告書『Sustainable Development Report 2021』によると，日本は目標 5 の達成度が他国に比べかなり低く，特に先進国の中では深刻な課題があると評価を受けている。また，2021 年の World Economic Forum による報告書『The Global Gender Gap Report 2021』によると，日本のジェンダー・ギャップ指数は 156 ヵ国中 120 位であり，先進国の中では非常に低い数値であった。さらに，2020 年春以降，新型コロナウイルス感染症の拡大は，男女共同参画の遅れが露呈することになったと指摘されている。

内閣府（2020）によると，男女共同参画を推進する取組が進められてきたのにも関わらず，依然として社会全体が変わるまでは至っておらず，それは，長年にわたり固定化された性別役割分業意識が原因の一つであると指摘している。その解決策の一つとして，第 5 次男女共同参画基本計画（2021～2025 年度）では，学校教育の中でジェンダー平等の意識改革を図ることを挙げた。具体的には，「学校教育を通じた意識改革，理解の促進として，固定的な性別役割分業意識や性差に関する偏見の解消，固定観念を打破するとともに，男女双方の意識改革と理解の促進を図る」とし，そのための教育・学習を充実するとしている。

家庭科は，家庭生活に足場を置き，自自立と共生に根差した生活を営むことのできる力をつけることを目的としており，その内容がいたるところでジェンダーに関わる問題とつながっている（堀内，2022）。また，家庭科は歴史的に男女別履修から男女共通履修へと

変化して来たこともあり，家庭科教育学界では，ジェンダーに関わる問題を乗り越えるため，カリキュラム研究や学習方法・学習内容の改訂等，様々な努力がなされてきた。日本家庭科教育学会（2019）は，家庭科の男女共通履修世代は，男女別履修世代よりも，特に男性の場合，家事や育児参加，パートナーシップに関する意識や実践度が高いという調査結果を報告している。しかし，鄭ら（2019）の中学校家庭科の教科書（平成 27 年検定済，平成 30 年度かより使用）分析によると，生活を映し出すイラストや写真にジェンダーバイアスの課題が残されていることを明らかにした。その後，2017 年に学習指導要領の改訂があり，中学校では 2021 年度より新しい教科書が使われている。堀内（2012）は，ジェンダーに起因 する教育における差別が解消されているかどうかを「絶えず疑問視」し続けるクリティカ ルな視点が重要であるとした。教科書は，教師が授業の中で扱う主要な教材であり，生徒において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイス）によるジェンダー観の再生産を防ぐためにも，引き続きジェンダーの視点で検討が求められる。

そこで本研究では，現行の中学校家庭科の教科書を対象に，記述内容やイラスト・写真をジェンダーの視点で分析を行い，その実態と課題を明らかにすることを目的とした。

２．研究方法

分析対象とした教科書は，2017 年に改訂された学習指導要領に基づき，令和 2 年度に検定済，令和 3 年度から使用されている中学校「技術・家庭 家庭分野」の全 3 社の教科書，*技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生*（開隆堂），*New 技術・家庭家庭分野 くらしを創造する*（教育図書），*新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して*（東京書籍）である（以下，各社の教科書を A 社，B 社，C 社と称する）。

2．1 記述の分析

(1) 人を表す単語

人を表す単語を，「性別を示す単語」と「性別を示さない単語」に分け，数量化した。「性別を示す単語」については，男女の頻出度に差があるか否か量的に分析し，具体的にどのような場面で扱われているのか質的に考察した。

(2) ジェンダーに関する学習内容

家庭科おけるジェンダーに関する学習内容は，A 家族・家庭生活領域で中心的に扱われている。久保（2020）は，A 家族・家庭生活領域における SDGs（目標 5）と関連する内容は「家庭生活を支える仕事」，「互いに協力し分担」，「家族や地域の人々と協力・協働」，「男女の平等と協力」，「男女共同参画社会の推進」，「固定的な性別役割分業観の見直し」，「ワークライフバランス」，「様々な生き方への理解」であるとした。西原ら（2017）の家庭科（中学校 A 家族・家庭生活領域）における ESD の構成概念によると，久保（2020）が挙げている内容の他に「男女共同参画基本法」や「男女雇用機会均等法」のような，法律に関する学習内容・キーワードを挙げている。

本研究では，久保（2020）及び西原ら（2017）の，SDGs，ESD に関する家庭科の内容を

基に，ジェンダーに関する学習内容を「分担・協力・協働」，「男女共同参画社会」「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「性別役割分業観の見直し」「ワークライフバランス」「ジェンダー」「LGBT など」の 8 のキーワードに整理し，これらのキーワードが家庭科の教科書にどのように反映されているか分析した。

2. 2 イラスト・写真の分析

イラスト・写真に登場する人物を性別に分け，数量化した。性別の判断基準は遠田ら（2001）の基準（第 1 に髪の毛の表現，第 2 にスカートの形態）を参考にした。なお，基準に照らし合わせても判断に迷うものはその他としてカウントした。

次に，イラスト・写真における男女の行動内容に差があるのか否かを量的・質的に分析した。鄭ら（2019）は，家庭科の教科書のイラスト・写真における男女の行動内容を分析する際に，内閣府が掲げている男女共同参画社会のイメージから，「仕事」「家事」「子どもとの関わり」「地域との関わり」の 4 つの場面に焦点を当て，分析をしている。本研究では，鄭ら（2019）の研究方法と同様に，4 つの行動場面を項目立て，それぞれの場面で登場する男女に差があるか否かを分析した。

３. 研究結果

3. 1 記述

(1) 人を表す単語

1) 性別を示す単語

教科書の記述から，女性を示す単語（女/女の子/母 など）と男性を示す単語（男/男の子/父 など）を抽出し，数量化した結果（図 1），A 社，C 社は男女の数量に大きな差はなかったが，B 社において女性を示す単語が男性を示す単語より多い結果となった。女性を示す単語が使用されている場面を見ると，例えば，消費生活・環境領域において，商品のマークを学習する際のマタニティマークの説明や，食生活領域において，食品群別摂取量を学習する場面で鉄摂取量の注釈などで使われていた。すなわち，「性別を示す単語」にジェンダーバイアスの課題は見受けられなかった。

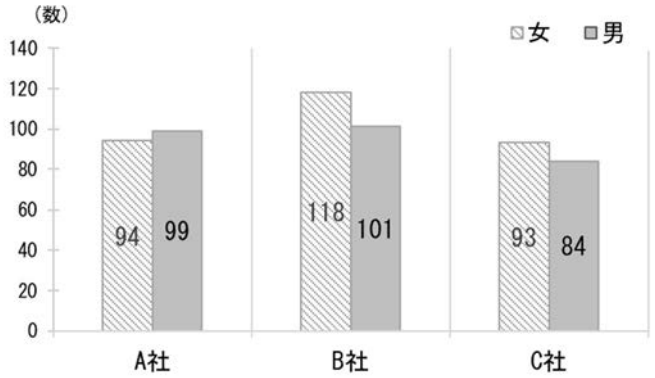

図 1 . 性別を示す単語数

2) 性別を示さない単語

一方，人を表す単語の中で，「性別を示さない単語」（自分/私たち/あなた/家族 など）を分析した結果（図 2 の「改訂後」），その数は，「1）性別を示す単語」よりもかなり多く見られた。学習者に男女の性別を意識させないジェンダーフリーな文章表現がより多く使われていることが分かる。

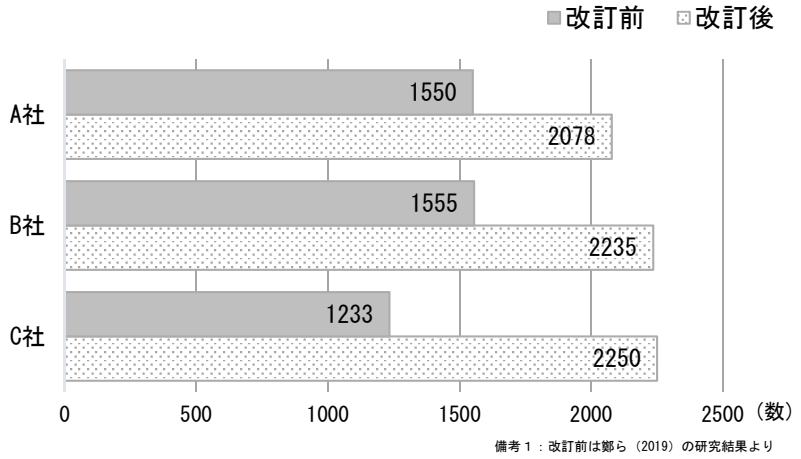

図２. 性別を示さない単語数（教科書改訂前後の比較）

また，鄭ら（2019）の教科書改訂前の研究結果（図 2 の「改訂前」）と比較したところ，教科書改訂後の現行の教科書は，性を示さない単語がかなり増加していた。その内訳を見ると，「高齢者」「障がいを持つ人」「外国の人」などの単語の増加が目立っている。これらの単語は，社会的弱者への配慮や共生社会の構築に関する文脈に多く使われており，例えば，「地域にはさまざまな人がいます。…性に関する表現が見かけと違う人などです。このような人たちを小数の人として見過ごすのではなく，…」（A 社 p. 58）という記述や，「高齢者や障がいのある人，育児中の人，外国から来て日本語に不慣れな人，LGBT などの人たちが差別や偏見なく自分らしく生きられるように，配慮した制度が整えられてきています。」（A 社 p. 59））のような記述である。性別，年齢，障害，国籍などに関係なく，多様性を認め合いながら，誰もが暮らしやすい社会を作り上げることを目指した学習内容になっていることが分かった。

(2) ジェンダーに関する学習内容

ジェンダーに関する学習内容「分担・協力・協働」，「男女共同参画社会」「男女共同参画社会基本法」「男女雇用機会均等法」「性別役割分業観の見直し」「ワークライフバランス」「ジェンダー」「LGBT など」の 8 のキーワードが家庭科の教科書にどのように反映されているか分析した結果（表１），3 社共通して「分担・協力・協働」は十分反映されていることが分かった。このキーワードは，A 家族・家庭生活領域の家事分担・協力を促す内容に多く使用されていた。一方で，「男女雇用機会均等法」はいずれの教科書にも反映さ

れていなかった。中学校では職業体験をはじめて経験する時期であり，将来を見据え，働き方における男女平等の視点を考える際に必要な内容であるのではないかと考える。

表１．教科書の記述における SDG s（ジェンダーに関連する目標）のキーワード分析

単語／出版社	分担・協力・協働・	男女共同参画社会	男女共同参画社会基本法	男女雇用機会均等法	性別役割分業観の見直し	ワークライフバランス	ジェンダー	LGBTなど
A 社	○	○	○	×	○	○	○	○
B 社	○	○	×	×	○	○	▲	▲
C 社	○	×	○	×	▲	▲	▲	▲

本文・資料に詳しい記述あり：○，資料・活動に一部記述あり：▲，記述なし：×

また，出版社ごとに比較すると，A 社は全てのキーワードが比較的十分に扱われている上で，性の多様性の理解を促す「LGBT など」に関する記述が見られた。それに対し，C 社は「性別役割分業観の見直し」「ワークライフバランス」「ジェンダー」「LGBTQ など」のキーワードに関する内容は一部の記述のみであり，その扱いが不十分だった。出版社により，ジェンダーに関する学習内容の扱いに差が見られ，どの教科書を使用するかによって，ジェンダーについて考えるきっかけや授業内容，活用に差が生じるのではないかと考える。

3. 2 イラスト・写真

教科書に掲載されているイラスト・写真に登場する人物を性別に分け，数量化した結果（図 3，図 4），イラストでは３社ともに男性の方が女性よりも多く登場していたが，写真では，C 社において，女性の登場数が男性よりもはるかに多く登場していた。性別の判断がつかない「その他」の数値はイラスト・写真とも非常に少なかった。そこで，男女の行動内容の違いの有無に着目し，「仕事」「家事」「子どもとの関わり」「地域活動への参加」の行動場面ごとに男女の登場数に違いがあるか否かを分析することにした。

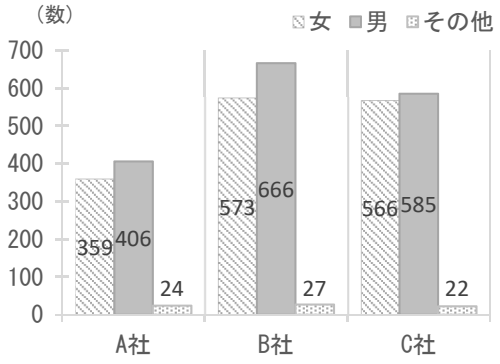

図３．イラストに登場する人物数

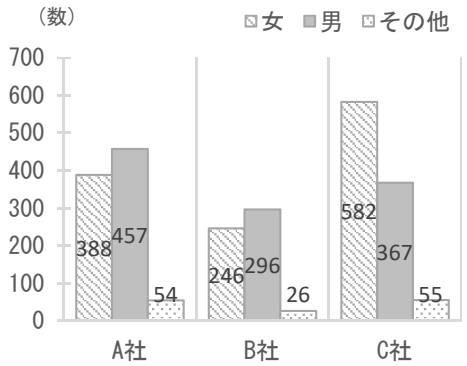

図４．写真に登場する人物数

(1) 仕事

「仕事」場面における男女の登場数を分析した結果を図5，図6に示す。イラストは3社とも男性の方が女性よりも多く見られた。イラストに描かれている男性の仕事内容を見ると，「保育士」，「看護師」，「美容師」，「ケーキ屋の店員」など，伝統的に女性が多く担っていたとみられる職業であった。一方，写真は，A 社は男性（国会議員など）がかなり多く，C 社は女性（子どもに関わる職業など）が多い結果となった。イラストは執筆者・編集者の意図により，その内容を比較的自由に描くことができるが，写真は家庭や社会の実態を映し出す実教材であり，日本社会が抱えている職業のジェンダー・ギャップ課題がそのまま教科書に反映されているものと考えられる。

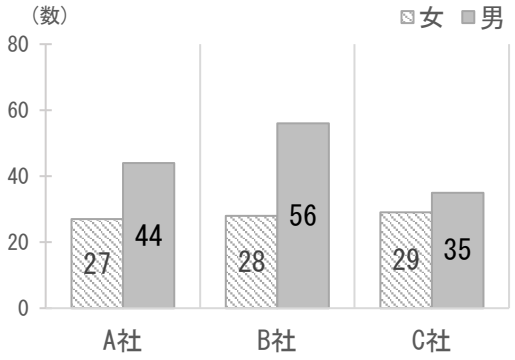

図５. 仕事場面のイラストにおける人物数

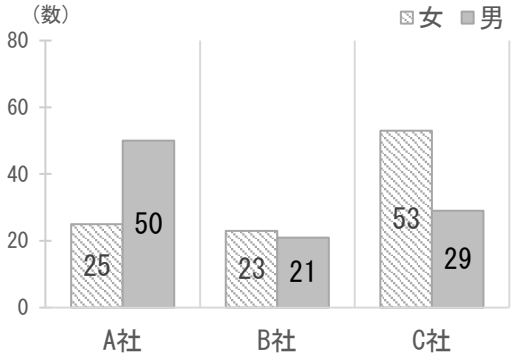

図６. 仕事場面の写真における人物数

(2) 家事

「家事」場面における男女の登場数を分析した結果を図7，図8に示す。イラストは3社ともに男女の差がほとんど見られなかった。写真は，女性の方がわずかに多く見られた。しかし，写真の内容を見ると，同一の女子生徒が複数枚の写真に選定されており，付随している記述内容からも性別役割分業を助長しているような表現は見られなかった。したがって，「家事」場面に登場する人物にはジェンダーバイアスの課題は見受けられなかった。

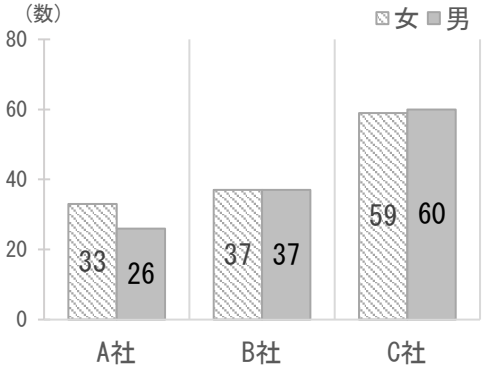

図７. 家事場面のイラストにおける人物数

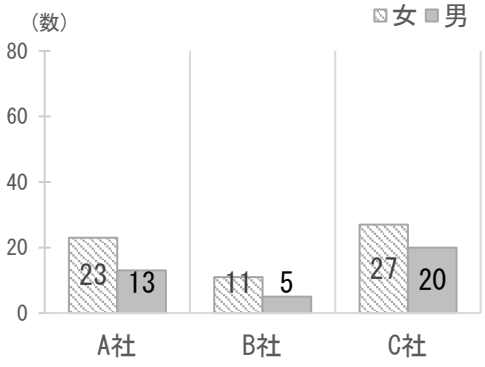

図８. 家事場面の写真における人物数

(3) 子どもとの関わり

「子どもとの関わり」の場面における男女の登場数を分析した結果を図 9，図 10 に示す。イラストは３社ともに男女の差がほとんど見られず，ジェンダーフリーなイラストの掲載がされていた。写真は，B 社において男性の方が女性よりも多く見られた。「子どもの世話は女性が担う」という，かつての性別役割分業の払拭を意図した編集がされているものと考えられる。

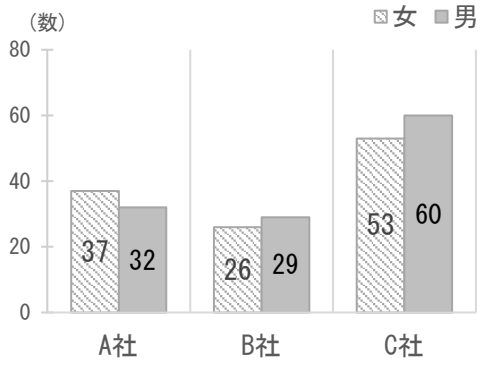

図 9. 子どもと関わる場面のイラストにおける人物数

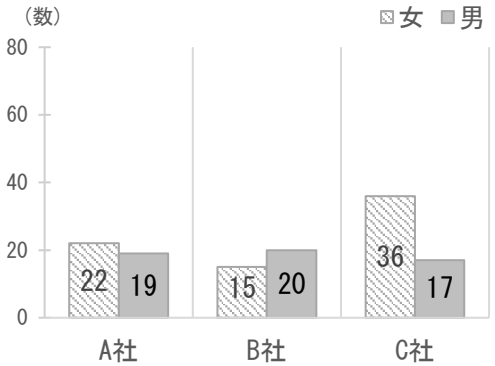

図 10. 子どもと関わる場面の写真における人物数

鄭ら（2019）の教科書改訂前の研究結果では，「子どもとの関わり」の場面のイラスト・写真において，ジェンダーバイアスの問題が最も多く指摘されていた。そこで，鄭ら（2019）の研究対象であった改訂前の教科書と，本研究対象である改定後の教科書において，「子どもの関わり」の場面の分析結果を比較した（図 11）。

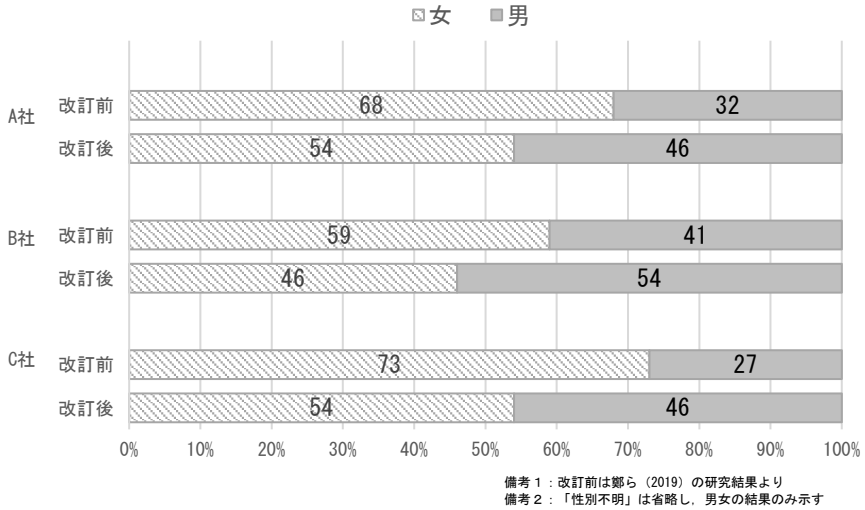

図 11. 子どもと関わる場面のイラスト・写真の男女比（教科書改訂前後の比較）

教科書改訂前は，3 社とも子どもと関わる人物として女性が多く登場しており，ジェンダーバイアスの課題が見られたが，教科書改訂後は，男女の割合がほぼ均等になり，ジェンダーバイアスがかなり解消されていることが明らかになった。

(4) 地域活動への参加

「地域活動への参加」の場面における男女の登場数を分析した結果を図 12，図 13 に示す。イラストにおいて男女の差はほとんど見られなかった。しかし，写真は C 社において女性が多く登場しており，その活動内容にもジェンダーバイアスが表れていた。例えば，調理実習の補助，子育て，食料配布など家事にまつわる地域活動をする女性の写真が多く見られた（表 2)。家庭内の場面ではないとしても，家事は女性の仕事という印象づけに繋がる可能性があると考える。

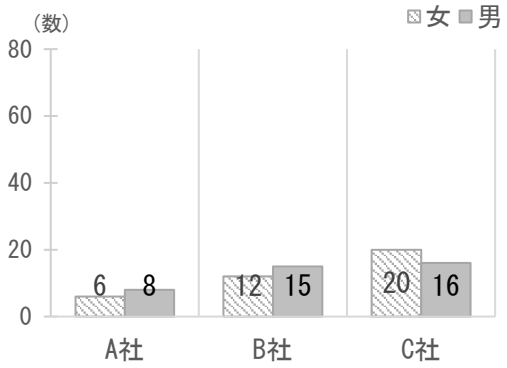

図 12. 地域活動参加場面のイラストにおける人物数

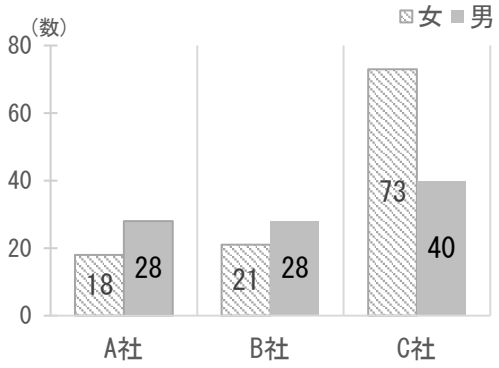

図 13. 地域活動参加場面の写真における人物数

表 2．「地域活動への参加」場面（写真）における女性の行動内容（C 社の例）

女性が地域活動に参加している場面			
領域	頁	該当箇所	行動内容
家族・家庭生活	219	（図）地域の人と支え合う活動	**お節づくりの調理実習に地域の人として参加する女性**
			地域の防災訓練に参加する女性
			小学校の挨拶運動に地域の人として参加する女性
			地域のお祭りに参加する女性
			地域のごみ分別活動に参加する女性
			中学生と共に防犯パトロールに参加する女性
	244	（資料）中学校へようこそ	**赤ちゃんを連れて，地域の中学生に育児の話をする女性**
	260	（資料）地域の人と関わり，ともに生きる	地域の小学生たちと合同防災訓練に参加する女性
	261	（資料）地域のお祭りを開催する	地域のお祭りに参加する女性
		（活動）地域でできることを考えよう	地域の公園や神社を清掃する女子中学生
住生活	179	（図）地域での中学生の活動	河川の清掃活動に参加する女性
			地域の防災訓練の中で食料配布などを行っている女性

４. 終わりに

本研究では現行の中学校家庭科の教科書に対象に，記述内容やイラスト・写真をジェンダーの視点から分析を行い，以下のことを明らかにした。

(1) 人を表す単語を男女で比較分析した結果，男女の登場数の差はほとんど見られず，また，「性別を示す単語」より，「性別を示さない単語」を多く用いることで，教科書改定前の課題であったジェンダーバイアス的な表現が大きく解消されていることが明らかになった。さらに，「性別を示さない単語」には，性的少数者や社会的弱者への配慮など，多様性を包括する社会への理解を促す内容になっていることが分かった。

(2) ジェンダーに関連する学習内容を分析をした結果，働き方に関しては，ジェンダーの視点がいずれの教科書も記載が不十分であった。ジェンダーの課題は家庭や社会のあらゆるところでつながっている。家庭科における家庭と仕事，ワークライフバランスのあり方を考える際に，家庭内だけでなく社会での働きについてもジェンダーフリーな視点を育むことができるよう，学習内容の検討が求められる。

(3) イラスト・写真の行動場面における男女差を比較分析した結果，「家事」や「子どもとの関わり」の場面は男女差が差ほどなく，さらには，男性がより多く登場することで，ジェンダーフリーな編集がなされていた。しかし，「仕事」場面の写真の一部において，ジェンダーバイアスの課題が見られた。写真は，実社会を映し出す資料であるため，社会的に存在するジェンダーの課題を克服するための資料の検討が求められる。

SDGs の目標 5 ジェンダー平等の実現に向けては，性自認や性的指向が形成される学校段階から，ジェンダーの壁を超え，人々の多様性を容認し合えるような環境が重要になってくるのではないかと考える。性別役割分業を乗り越え，多様な生き方が共生する，持続可能な社会の生活主体を育てるに当たり，家庭科の教科書の改善と活用を期待する。

文　献

大竹美登利（2021）．*技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生*．開隆堂出版株式会社.

伊藤葉子・河村美穂（2021）．*New 技術・家庭家庭分野 くらしを創造する*．教育図書株式会社.

久保桂子（2020）．家庭科の家族・家庭生活領域の学習と SDGs．*日本家庭科学会誌，63*（1），33-36.

Sustainable Development Solutions Network（SDSN）（2021）．Sustainable Development Report 2021.

World Economic Forum（2021）．The Global Gender Gap Report 2021.

日本家庭科教育学会（2019）．*未来の生活を創る 家庭科で育む生活リテラシー*．明治図書.

佐藤文子・志村結美 （2021）．*新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して*．東京書籍株式会社.

遠田瑞穂・吉野真弓・佐藤麻子・大竹美登利（2001）．中学校「技術・家庭」教科書のジェンダーバイアスに関する分析 ー家庭分野についてー．*日本家庭科教育学会誌,44*（2），117-126.

鄭暁静・佐々木茉陽（2019）．中学校「技術・家庭」家庭分野の教科書におけるジェンダー分析．日本家庭科教育学会第 62 回大会，2019（Jun. 29）．

内閣府男女共同参画局（2020）．第 5 次男女共同参画基本計画 ～すべての女性が輝く令和の社会へ～.

西原直枝・井元りえ・妹尾理子・志村結美・佐藤裕紀子・大矢英世・加賀恵子・佐藤典子（2017）．家庭科における ESD の構成概念および学習内容の明確化．*日本家庭科教育学会誌,60*（2），76-86.

堀内かおる（2012）．ジェンダー視点から見る家庭科教育の課題：男女共同参画社会に向けて.*日本家庭科学会誌,54*（4），215-225.

堀内かおる・村上飛鳥・大田桃可（2022）．小・中学生のジェンダーに関する実態と意識 ー家庭科教育の視点からー．*横浜国立大学教育学部紀要Ⅰ教育科学５*，249–264.

（2022年11月30日　受付）
（2023年 2月28日　受理）